～ お盆でも休みません。立秋の森歩き ～

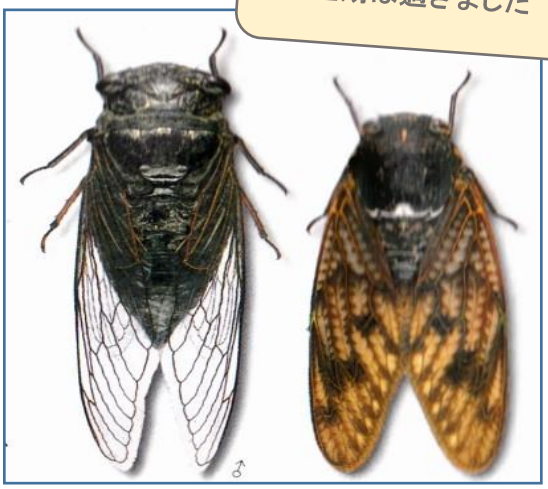
相生山の四季を歩く会 #166
2023.8.13

8月の樹の花　シソ科のクサギ（臭木）
強い芳香、雄しべvs雌しべ、どっちが
先熟？ ・・・・・アゲハ蝶がやって来る

お盆なので精霊飛蝗

ヌルデ（白膠木）が咲いたら秋！

最盛期は過ぎました　セミ。 声で種類が分かりますか？



セミはカメムシ目、幼虫も
成虫も細長い口吻から樹
液を吸って生きています。

この時期の相生山に
鳴くのは5種類

アブラ・ミンミン
・クマ・ニイニイ
・ホウシ。。。。
カナカナはいるの
かな？？

画像は小学館の
NEOpocket昆虫より

今年もハイイロチョッキリの季節で
す。台風で落ちた枝とチョッキリが
落した枝の違いは？
ドングリの中に卵が見つかる！！

アオハダ（青肌）の輝き

ヤマウルシ（山漆）の刷毛

秋の七種の歌
山上憶良=万葉集

萩の花　尾花　葛花
撫子の花　女郎花
また　藤袴　朝顔の花

■2023秋のプラン■

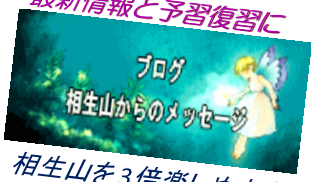
9月10日（日）　～秋の昆虫を探そう～

9月29日（金）　～十五夜の月と秋の虫～　**要申し込み**
18時ころ～2時間程度　雨天変更

10月 8日（日）　～秋になったから秋のキノコ狩り～

11月12日（日）　～木の実と早い紅葉を巡る～

自然と人間
人びとの思い
最新情報と予習復習に



相生山を３倍楽しめます

連　絡　先（古川）
tell/fax：052-821-6463
ｹｲﾀｲ：080-5124-6463
e-mail：viva_forest@yahoo.co.jp
https://lovelyearth.info/
検索：相生山の四季を歩く会

2023 年 7 月 31 日

名古屋市長 河村たかし様

相生山の四季を歩く会事務局　古川善嗣
ラブリーアース Japan 事務局　田中眞理

相生山のヒメボタルを守るための部署新設の提案

大都市名古屋の『自然遺産』ともいえる相生山緑地、そこに生息してきた準絶滅危惧種のヒメボタルの減少を心配しています。

私たちの 14 年にわたる「相生山の四季を歩く会」の活動は、ヒメボタルから始まり、植生、野鳥、昆虫、キノコ・菌類など観察対象を広げ、集う人びとの輪も広がってきました。

そうしたなかで生物多様性の実際を知り、さまざまなことを学ぶことができています。

たくさんの人びとから愛されている相生山のヒメボタル。しかし、その生態の現状調査および保全対策、地域住民生活と来訪者との整合、多岐にわたる啓蒙活動、などを統括して受け持つ部署はどこにもありません。

相生山の生態系の象徴種であるヒメボタルに着目し、環境破壊が今以上進まないよう、手だてを打つことが早急に求められています。

ＳＤＧｓの主要な課題でもある「自然環境を大事にすることが人びとのより良い未来につながる」ことからしても、名古屋市として避けて通ることは出来ない事案と考えます。

2017 年 6 月 6 日提出の「相生山の生態系を維持するための提案書」と、ことしの観察調査から得た「考察:相生山緑地のヒメボタルの消長について」を添えて提案します。

「(仮称) 相生山のヒメボタルを守るための司令部」を市の縦割り組織を超えて、緑政土木局内に設置してください。

現地の自然と密に接してきた人びとの一員として、事態の緊急性を憂い、すみやかな対応を願うものです。よろしくお願いいたします。

以上

2017 年 6 月 6 日

名古屋市長　河村たかし様

エコミュージアム愛知　代表　高岡立明
相生山の四季を歩く会　事務局　田中眞理
ラブリーアース Japan　事務局　古川善嗣
名古屋市南区豊 4-22-10　tell/fax 052-821-6463

相生山の生態系を維持するための提案書

1.「緑地整備案の検討」において、生態系維持のためのシステム（体系、しくみ、ルール、組織など）づくりを基本計画の優先課題とすること。

たとえばヒメボタルの時季、相生山緑地を訪れる人は宵から明け方まで、今年も週末には数百人規模に達しました。人々が自然への関心を深める良い機会である反面、森の生きものたちには多大なストレスを与えていると推測されます。

市道「弥富－相生山線」建設は中止になりましたが、生態系への脅威は増加し続けています。しかし、これまでの資料や会議記録には、こうしたことの記述はありません。「これからは自然を大事に」の市長判断に基づき、早急な対応が望まれます。

生態系が壊されている具体的事例をいくつか列記します。

(1) 緑地全域でのヒメボタルの数は 20 年前に比べて明らかに減少しています。人的要因と思われます。さらに、最近の撮影目当ての入り込みはオーバーユース状態にあり、その影響が懸念されます。

(2) この 1～2 年に限っても、ムベ・アマヅル・カラタチバナの 3 種が消失し、シュンランは激減しています。ムベとシュンランは盗掘によるもの、アマヅルは散策路の付け替えによるものと推察されます。

(3) 散策路沿いのクロミノニシゴリは何度もくり返し伐採されています。樹種も分からぬままに、あちこちで木を伐り続けている人びとがいます。

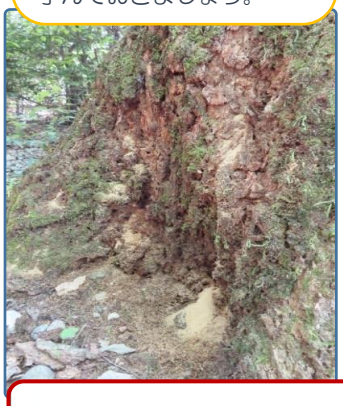
(4) 人の踏み込みによって散策路幅が広がったり、新しい「道」がつくられたりしています。

2. 生態系をこれ以上壊さないため、至急対策が必要です。前項のシステムができるまでの暫定的措置として、公報やマスコミなどを通じて市民に協力を呼びかける、巡回体制を強化する、場合によっては立ち入り制限するなど有効な手立てをとること。

世界の「ＡＩＯＩＹＡＭＡ」を実現するには、避けては通れない課題に対する提案です。ご検討をお願いいたします。

以上

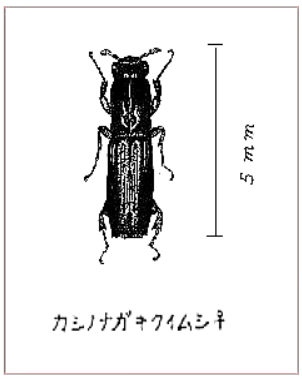
最近また、ナラ枯れが広がっているようです。相生山でも園路沿いや、南部住宅地などに、紅葉ではないのに葉が赤褐色になった状態のコナラが数本ありました。幹や枝葉に異常は無いように見えても、根元に木くずが散らばり溜まっている樹も何本か見られます。ナラ枯れの原因や考え方を学んでおきましょう。



森のひとり言　　北岡明彦　　ラブリーアース/ホームページより

その五 ： ナラ枯れ病について想う　（2009.07）

2006年より愛知県でも発生が確認されている「ナラ枯れ病」ですが、昨年より、名古屋市・豊田市・瀬戸市などで急激に被害が増大し、私たちの目にもよく触れるようになりました。その結果、各地でいろいろな防除対策がとられるようになりましたが、残念ながら100%効果的に根絶する方法はありません。



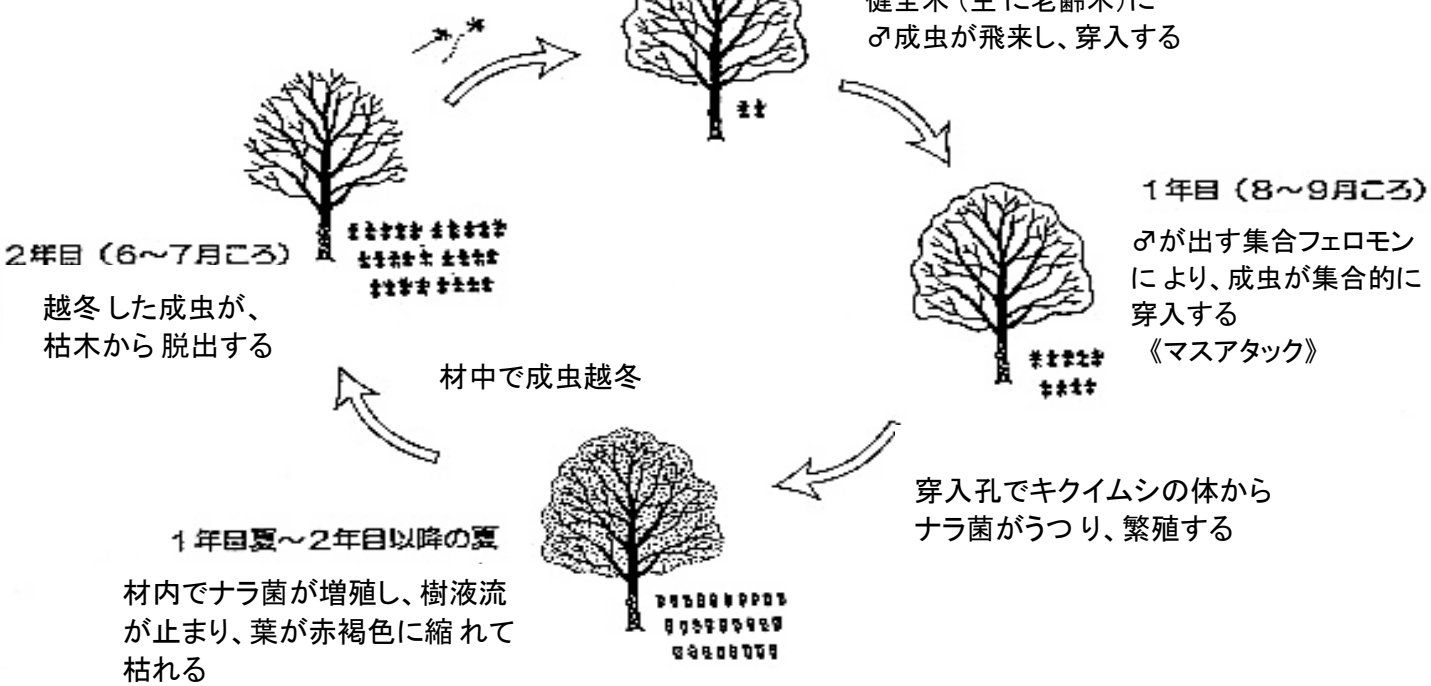
それは、あたり前の話です。「ナラ枯れ病」はカシノナガキクイムシという体長わずか数mmの日本古来からいる昆虫と、これまた日本中どこにでもいるナラタケ菌の共生によって発生するという、古くから見られる樹病だからです。

近年、いろいろな樹病が目立っています。30年来の発生をくり返すマツ枯れ病を始め、ミズキ・マンサク・ケケンポナシといった樹種で集団枯死が見られました。いずれも、老木や成木に被害が集中し、幼木はほとんど感染しません。

こうして考えてみると、何のことはない。今回のナラ枯れも、森の世代交替の一環ではないかと思われます。この地域で集中的に枯れているモンゴリナラとコナラは、ともに自然界での寿命は100年程度で、森林の植生遷移の中では、マツ林の次に成立するやや先駆植生的な面を持った樹木たちです。

里山の経済的利用が終り、コナラやモンゴリナラが樹齢80年近くになったとたん、ナラ枯れが始まりました。病死も自然死のひとつです。

公園や人家横にある枯死木は、安全上、伐採処理する必要がありますし、場合によっては予防措置をとる必要のある樹林もあると思われますが、自然林の中では、森の動きにまかせておくのが、最善の措置でしょう。



＜ カシノナガキクイムシによるナラ枯れ病のメカニズム ＞